

会 議 議 事 録

会 議 名	平成 27 年度 第 1 回 教育課程編成委員会	専門学校 東京工科自動車大学校 専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校 東京工科専門学校品川校
開催日時	平成 27 年 5 月 27 日 (水) 15:00 ~ 17:30	
会 場	東京テクニカルカレッジ・1104 教室 (全体会・2 級教育課程分科会) 東京テクニカルカレッジ・1101 教室 (1 級教育課程分科会)	
参 加 者	委員	15 人 (参加者) ・佐藤 康夫 (議長)、 ◇1 級教育課程課程分科会 ・山口 泰之 (1 級分科会リーダー) ・齋藤 昭男 ・甲斐 俊和 ・宮谷 真樹 ・大石 安孝 ・松村道隆 ・澁谷 健 ◇2 級教育課程分科会 ・小林 完 (2 級分科会リーダー) ・佐々木 洋文 ・沼田 勇 ・小野 宗憲 ・田村 智 ・油井 文江 ・竹尾和也 (欠席者) 谷川 潮 、遠藤 新一
	事務局	1 人 開田 実
配布資料	A:会議次第・会議進行資料 (PP) B:平成 26 年度第 2 回教育課程編成委員会会議議事録 (前回会議議事録) C:平成 27 年度教育課程編成委員会名簿 D:ナビゲータ Book2016 (東京工科グループ科別 カリキュラム等記載) * 展覧資料 「H26 年度自己点検評価報告書」中野・世田谷・品川	
全体会 会 議 録	<p style="text-align: center;">_____ 全体会 _____</p> <p>◆出席者・配布資料確認 (事務局)</p> <p>1. 開会挨拶</p> <p>昨年度から本年度に向けての経緯・事業計画等の報告がなされた(議長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職業実践専門課程関連 新たな職業教育 (職業大学校) に向けての動向 ・ 入学生の動向 (既卒者・留学生増) ・ H26 年度 国家資格合格率 1 級合格率 (8 割) 等の報告 ・ 本年度新設学科設立についての説明 (品川 1 級整備科・世田谷メルセデスコース) 	

2. 議事

・議長（佐藤）、書記（開田）の選出

審議事項

①前回議事録の確認（開田）

資料Bを基に前回議事録（H26年10月8日（水）開催）の確認が行われた。

また、議長より議事録で記載されていた委員からの指摘事項として、宿題の報告がなされた。

→教員FD教育の為、企業研修やメーカー教本の活用をした方が良いのでは？

⇒既に、多くのメカ教本資料を参考にしているが、毎年更新がされていない。

各委員（企業）への協力要請がなされた。また、本年度は4名の企業からの出向社員も迎えたことにより対応を行った。

→留学生に関する特別カリキュラムが必要ではないのか？

⇒本年度より留学生の日本語教育を外部に委託し行う事となっている。

以上の報告がなされた。

全員一致で承認

②教育課程編成に関わる平成27年度の取組みについて抄状況に関して

資料C・Dを基に本年度、より具体的なカリキュラムを構築する為にこれより

分科会開催と分科会メンバーの選出がなされた。

全員一致で承認

③1級課程の教育内容 概要について

分科会リーダーより1級課程3年・4年に求める意見を頂きたい主旨の説明がなされた。又、資料Dを基に中野校→世田谷校→品川校の順で各校教務部長よりカリキュラム説明がなされた。

・中野校1級科 定員変更40名→50名 1～2年次のカリキュラムは就職プログラム以外は1年2年次は同様の科目内容である。3,4年次は次世代モビリティをテーマにメカトロニクスやモータ制御についての学習を取り入れている。

・世田谷校1級科 物づくりがテーマであり、メーカー開発部門への就職に対応できるよう4力学講義・実験を取り入れたカリキュラム構成となっている。又、それを検証する為に学生フォーミュラへ参加させている。(昨年度のメーカー系開発職の就職率は73%)

→1級課程と2級課程の学生は、就職先で違いはあるか？(学校)

⇒知識はあるが、入社して数年でその知識を活かすことは出来ない。それであれば、高度な知識より定期点検等を深く学ばせた方が良い。

⇒4年間の課程では資格が絶対条件となる。その上で「グローバルメンテナンス＝考える力」は、いつか必ず役に立つ。(品川校の取組に興味がある)

⇒6～7年経験を積むと頭角を現すのが1級整備士。(リーダーシップを取れる。)

整備技術以外にウエイトが掛かりすぎるとブレてしまうので、整備に特化すべ

きである。

→入社した学生で、期待外れだったことはないか？（学校）

⇒知識がありすぎて困っている。頭でっかちになりすぎ、柔軟性を必要とする。

貴重な意見として受け止めるとのリーダー発言がなされ 1 級課程分科会が終了した。

2 級教育課程分科会

③2 級課程の教育内容 概要について

分科会リーダより、前年度はヒューマンスキルと安全作業に絞った事項であったが、より具体的なカリキュラムの意見を頂きたいとの趣旨説明がなされた。又、資料 D を基に 2 級課程カリキュラム説明がなされた。

・現行 2 級課程のベースになる自動車整備科の講義科目、実習科目の概要説明。

（5 期生/年、実習・学科時間数、基本科目概要、整備士資格の概要）

東京工科グループ特徴科目として問題解決能力・PDCA を学ぶプロジェクトセミナー科目の説明。（レース車両製作等）

→卒業生の大半は自動車ディーラーであり、2 級整備士を取るカリキュラムであるが、現行でも HV 車が、多く使用さ入れている。数年後には国の政策やメーカーの動向、インフラによって大半がエンジンはモータになる。国土交通省が指定しているカリキュラムベースでは、対応できない現実がある。その為には、教員が次世代の車両のカリキュラムを構築できる対応を早急に行う事（準備）が必要である。

→夜間課程と昼夜課程の科目名が違うのはおかしい。時間数の関係で多少の違いであっても、同様科目の科目名が統一しなければ整合性が取れないのではないか。

⇒ご指摘の通り、本年度は科目名に関しても変更を行っている。（資料は昨年度のもの）

→サービス職（中核的人材）を育成する学校にとっては、テクニカル・コミュニケーション能力が必要で出口ニーズが重要なポイント。自動車という保守的な社会に於いて、女性の進出を重要と考えるならば、この仕事は女性の指定席という考えは辞めた方が良い。

→最近では板金課程を持っている学校が多いが、検討しないのか？

⇒以前より検討をしていたが、立地環境や出口ニーズを考えた上で行わない決定をした経緯がある。

→2 級 2 輪の取得はするのか。

⇒2 級課程は奨励していない。（2 級自動車整備士と 2 級 2 輪は同様の資格）

但し、1 級課程は在学中に取得可能である為、受験させている。

→安全整備に関して、誤った考えをもった新人が多い。電気・デジタル回路を理解出来ていない。物を壊さない整備を心掛ける大切さが必要である。今後は HV 等の大容量バッテリーを扱う上で、誤った認識・点検を行うと大事故に繋がる恐れがある。学校でその知識だけは植えつけて頂きたい。

貴重な意見として受け止めるとの議長の発言がなされ2級課程分科会が終了した。

全体会

④各分科会のまとめ

各分科会リーダーより 意見集約の報告があった。

1) 1級課程

主に3・4年生中心のカリキュラムについてのご意見を集約した内容である。

- ・まずは、考え抜く力・説明できる力（なぜ これらの整備が出来る実力）を身に付ける事が必要
- ・新技術に関して今後の次世代自動車（FCVやEV）に対応できる実力を身に付ける。
- ・柔軟性のある・発想力のある実力を身に付けることが望ましい。

以上のご指摘があった。

なかでも、「グローバルメンテナンス」についての質疑が多く、次回は「考える力」を身に付けさせるための一つの方策として、グローバルメンテナンスの概要を提示し、意見をいただくことで、1級課程での実践力アップにつながるカリキュラムを検討したい。

2) 2級課程

学校で取り組むべき内容の集約となった。

- ・次世代自動車（FCV・EV等）の教育が出来る教員に向けての体制作り
- ・学校として女性の受け入れ体制（入口・出口）をしっかり示す
- ・教科に関しては、「安全整備」「電気の基礎」を含む基本をしっかり学ぶ。

以上の指摘があった。

より具体的なカリキュラムについて検討して頂きたい主旨で本年度より分科会をスタートした。短時間の間でのカリキュラム内容を理解することは難しい中、貴重な意見を頂いたと考える。これらを整理し、次回会議についても継続して検討して頂きたいとの議長挨拶で閉会となる。

◇次回会議日程

平成27年 10月7日（水）15:00～17:30

以上

